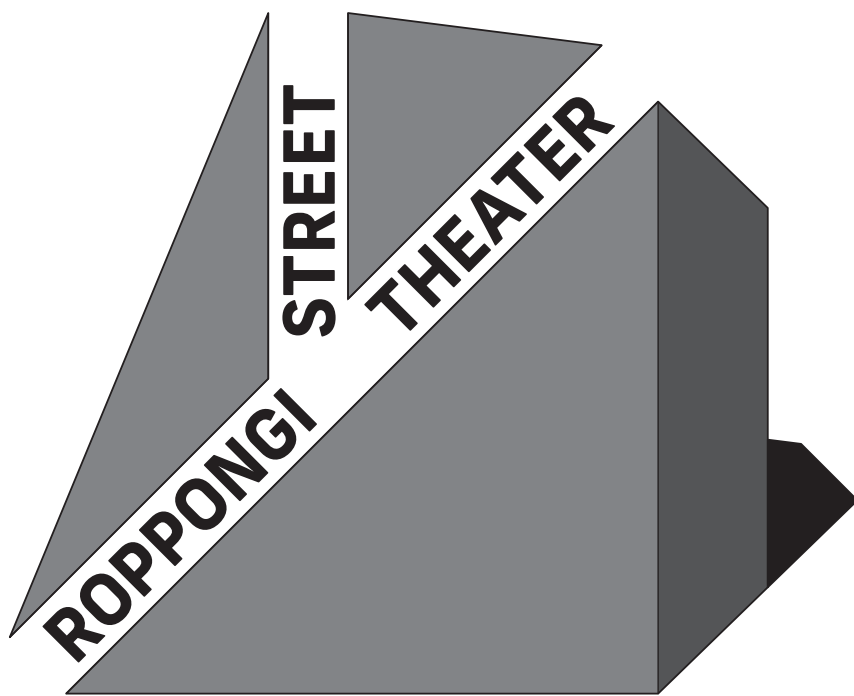


July 22, 2023

無料 Admission Free 事前申し込み不要

※混雑した場合、観覧制限を行う場合がございます



Welcome to

ROPPONGI STREET THEATER

ART & ARCHITECTURE:

意心帰

"ISHINKI" Mindful Heart

ギャラリー

Galleria

21_21 DESIGN SIGHT

乃木神社

Nogi-jinja shrine

PERFORMERS:

乃木雅楽会

Nogi Gagaku Kai

第3回目となる今回は、今年御鎮座100年を迎える乃木神社とのコラボレーション。「乃木雅楽会」が奏でる和の音色と舞が、建築とアートと共演します。舞台となるのは、安田侃さんによる大理石の彫刻作品《意心帰》ほか、安藤忠雄さんが手がけた《21_21 DESIGN SIGHT》前の芝生エリアでは、建築を背景に演奏をお楽しみいただけます。また、大江宏さんが建築を手掛けた乃木神社でも特別公演を行います。夏の香りの中で繰り広げられるパフォーマンスをお楽しみください。

会 ①東京ミッドタウン(東京都港区赤坂9-7-1) 13:00/19:00(各回約25分・開始15分前開場)
安田侃作品《意心帰》・ギャラリー吹き抜け空間・21_21 DESIGN SIGHT 前の芝生エリア
※パフォーマンスは《意心帰》からスタート ※雨天・荒天の場合は21_21 DESIGN SIGHT 前の芝生エリアでのパフォーマンスを中止します
場 ②乃木神社(東京都港区赤坂8-11-27) 17:30(約20分・17:00開場) 於 乃木神社境内

パブリックアート&建築がパフォーマンスと共演

主催

六本木未来会議 × TOKYO MIDTOWN

特別協力

乃木神社&NPO法人雅楽道友会





意心帰／安田侃
Mindful Heart by Kan Yasuda

イタリア・ピエトラサンタの数十年前という時を経て生み出された18.5トンの大理石で作られた彫刻作品。石に彫られた穴に身を沈めると地球の一部になったような感覚になり、静かな太古の声なき声が石から聞こえてくるようです。石に彫られた穴の中で、まるで地球の中に入っているような安堵感を感じてほしい、という作者の想いが込められています。



Photo Masaya Yoshimura

21_21 DESIGN SIGHT

設計は安藤忠雄。三宅一生の服づくりのコンセプト「一枚の布」に着目した建築には、一枚の鉄板を折り曲げたような屋根をはじめ、2つの棟のいたるところに世界屈指の日本の技術が結集されています。ボリュームの約8割が地下に設けられ、自然光がさしこむサンクンコートなど、ダイナミックな空間が広がっています。



ガレリア／
Communication Arts, Inc.
ヘンリーG.ビア
Galleria by Communication Arts, Inc.
Henry G. Beer

東京ミッドタウンのエントランス。鳥居を模したガレリアゲートから館内に入ると、京都・清水寺の「音羽の滝」をコンセプトにしたツリーシャワーが出迎えます。その奥に広がる、ガレリア吹き抜けの大空間にかけられた3つのブリッジは、B1から、社、木、太陽を表現した和紙の作品「鎮守の森」です。日本の伝統的な建築をモチーフに、都市と緑を結ぶ回廊がデザインされています。



乃木神社
Nogi-jinja shrine

建築家 大江宏氏による設計。社殿の建築全体を構成する垂直と水平の縦横比、あるいはその対比を構成する木割組み合わせによるリズムと調和。神社建築の要素をふんだんに盛り込み、昇華させたモダンイズム建築としての社殿は都心にありながら鎮守の社にまもられ静謐な空間をつくりだしています。

六本木未来会議

デザインとアートと人をつなぐ街に

「クリエイター・アーティストの視点から考える未来」をコンセプトにデザインやアートの観点から少し先の街の未来を発信するウェブマガジン。「六本木ストリートシアター」は彫刻家・安田侃さんのインタビューからでたアイデアを実現したプロジェクトです。



乃木雅楽会
Nogi Gagaku Kai

元宮内庁楽部楽師 故・園廣教を中心に有志が集い、古典の伝承に励むことを指針に、乃木神社祭典や結婚式での演奏活動や管楽器の製作をはじめ、各地の雅楽団体への指導にも取り組んでいます。

雅楽器

Gagaku musical instruments



笙・しょう
Shō

日本には奈良時代ごろに雅楽とともに伝わってきたと考えられている。その形は翼を立てて休んでいる鳳凰に見立てられることから、笙は別名として鳳笙(ほうしょう)とも呼ばれる。匏(ほう)と呼ばれる部分の上に17本の細い竹管を円形に配置し、竹管に空けられた指穴を押さえ、匏の横側に空けられた吹口に息を吸ったり吐いたりして、17本のうち原則15本の竹管の下部に付けられた金属製の簧(した:リード)を振動させて音を出す。その音色は天から差し込む光を表すといわれている。



篳篥・ひちりき
Hichiriki

篳篥は漆を塗った竹の管で作られ、表側に7つ、裏側に2つの孔(あな)を持つ縦笛である。発音体にはダブルリードのような形状をした蘆舌(ろげつ)を用いる。その音色は地に在る人の声を表すといわれている。



龍笛・りゅうてき
Ryuteki

龍笛は篠竹の管で作られ、表側に「歌口(うたぐち)」と7つの「指孔(ゆびあな)」を持つ横笛であり、能管、篠笛など和楽器の横笛全般の原型・先祖であるとも考えられている。低い音から高い音の間を縦横無尽に駆け抜けるその音色は「龍の鳴き声」と例えられ、それが名前の由来となっている。



舞楽・ぶがく

Court dance and music

日本古来の歌舞と、朝鮮半島より日本に伝わった歌舞が融合したものを雅楽といい、宮中や社寺の儀式音楽として取り入れられました。その舞は今日にも受け継がれ、舞楽とよばれています。

Photo Toshiya Suzuki